

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2021年(令和3年)2月1日

会報 第115号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Street396,Sangkat Boeng Keng Kong3,
Khan Chomkamon, Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】[カンボジア支援](#) [検索]

【公式ブログ】[メコンの風に吹かれて](#) [検索]

北原三由美様の資金協力により昨年3月に着工し、既に完成した4校の新校舎贈呈式が11月に行われた。式が行われたのは、メーボン小学校(プレイベーン県)、ブノンビヒア小学校(コンポンチャム県)、ドーンポック小学校(クラチエ恩)、ポットソクロツム小学校(クラチエ恩)の4つの小学校。カンボジアはコロナウイルスの影響で入国制限が厳しく、日本からは岸理事長のみの出席だったが、カンボジア政府からは、3校の贈呈式にシアン・ブン・レン内務省大臣、1校にピチ・ブン・テン上級公務員大臣が出席してくださいました。

各贈呈式には、地元から県知事を始めとする教育関係者、村人、生徒ら約500人～800人が出席した。

新校舎では既に授業が行われているものの、コロナ禍で十分に使える

かったため、今年からはフル活用が可能と思われる。

新校舎で、生徒たちの元気な声が響くのを楽しみにしている。

11月1日～28日、カンボジアを訪問した。前回の訪問は3月だったが、その後新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け行くことができず、8カ月ぶりの訪問だった。

カンボジアのコロナ感染者は累計で380人程度、死亡者ゼロとい

う優秀な成績だが、医療施設が脆弱であり国内の蔓延防止のため、入

国者に対し厳しい制限を課してい

る。

本来なら、もう少し落ち着いてかかるの訪問が望ましかったが、小学校校舎の贈呈式、9月に閉園した児童養護施設「夢ホーム」の点検など年内に行うべき活動が多くあり、無理を承知で渡航した。往路だけでPCR検査を3回行うなど大変

だつたが、良い経験にはなった。

約一カ月間という前例のない長期滞在だったが、前半の2週間は自

主隔離の要請があり、後半の2週間に本格的活動を行った。

滞在中に、ハンガリー政府高官がコロナに感染していたことが判明、

その後国内で感染者が多数出現し

たため、政府は学校閉鎖、遊興施設閉鎖などの措置を講じた。

更に私が帰国後の12月初頭に再び感染者が増え、ブノンベン市内の

イオンモールが閉鎖、9月に再開したばかりの公立学校は、今年1月の

新学期まで臨時休校となってしまった。「そこまでやるか」と思ったが、

それでお国の事情もあり、見守るしかない心情。

幸いにも私の滞在中は学校が開いていたので、当所予定していた校舎・井戸・遊具などの贈呈式はつづりながら挙行され、里子訪問も支障なく行うことができ幸運だった。

久しぶりのカンボジア、厳しい入国制限の影響で観光客はほぼゼロ、

ブノンベン市内で欧米人・日本人を見かけることはなかつた。今回行く

ことができるなかつたが、アンコールワットのあるシェムリアップもひつ

りしてゐるに違ひない。国が経済より国民の命を選択したのだから、国民は耐えるしかないだろう。

旅の後半、カンボジアのリゾート地「シアンヌークビル」にも行ってみた。5年ぶりの訪問だったが、中国

入国制限が厳しいカンボジアを訪問しました

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長

根岸 恒次



小学校の贈呈式であいさつ

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば76年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

*お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。



里親さん、ありがとうございます

【教育里親会費】子ども1人につき 1年間3万円。

・内訳

子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)

年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)

・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。

・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらも可。

所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】

・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。

・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

・年3回実施の「里子訪問の旅」に参加し、里子に会うこともできます。

Facebookに本会の活動を随時投稿しています

里子へのプレゼントは 隨時受け付けています

●コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアへの渡航が難しくなりました。しかし、海外送金は問題なく可能ですので、当面は皆様から送って頂いたプレゼント代金を現地の本会銀行口座へ送り、現地スタッフがプレゼントをお届け致します。里子からのお礼状(写真付き)もメールで送ってもらいます。

●事務局に届いた里子プレゼント(品物)につきましては、カンボジアへの渡航が可能になりましたら、空港から持参させて頂きます。暫くお時間を頂きますので、この時期品物を避け、なるべく現金をお送りください。(手紙はメールで、現地に送ります)

現地購入(プレゼント代を振込票にてご送金ください)

・自転車(中古品)	7,500円
・お米(50キロ入り)	4,500円
・通学用かばん	3,000円
・ティーシャツ2枚&サンダルセット	2,000円
・本(絵本2冊・中学生以上は英語辞書1冊)	1,000円
・お菓子セット(お菓子の詰め合わせ)	1,000円
・文房具セット(ノート、筆記用具等)	1,000円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。

※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

里子への教育支援金を 隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、教育里子が通学する小学校(27校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費(1人の里子につき3万円)の中から、42%に当たる12,600円を6回に分け、米ドルに換金して届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

12月初旬に10月と11月分を、現地スタッフが各学校を回り届けた。



支援金を届けました



里子の家を訪問しました

しかし、11月下旬に大きなクラスターが発生して

たため、12月から再び休校となってしまった。ま

ともに授業できたのは1年間で4ヶ月のみ。ただ

久しぶりに里子たちの元気な声を聞き安心し

て、支障なく学校訪問、里子訪問を行った。

幸い、私が訪問した11月は授業を行っていたの

で、久しぶりに里子たちの元気な声を聞き安心し

(根岸記)

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約330人の子どもたちを教育支援している。

カンボジアは、コロナウイルス感拡大防止のため昨年3月から休校して

いたが、9月7日から全国一斉に学校を再開した。

しかし、11月下旬に大きなクラスターが発生して

たため、12月から再び休校となってしまった。ま

ともに授業できたのは1年間で4ヶ月のみ。ただ

久しぶりに里子たちの元気な声を聞き安心し

て、支障なく学校訪問、里子訪問を行った。

幸い、私が訪問した11月は授業を行っていたの

で、久しぶりに里子たちの元気な声を聞き安心し

(根岸記)

クメール教育里親基金活動レポート

11月1日～28日、新型コロナウイルス予防のため厳しい入国規制を敷くカンボジアを訪問しました。その様子を2回にわたり連載いたします。今後渡航される方の参考になれば幸いです。

昨年3月、新型コロナウイルスの流行が始まった頃は、各国とも入国規制が緩やかだったので、本会のカンボジアツアーや催行することができた。しかしその後、世界的な流行が厳しさを増すと各国が入国規制を開始、特に医療体制が脆弱なカンボジアはいち早く、外国人からの入国に厳しい規制を敷いた。

そんな中での11月1日～28日、2020年度2度目のカンボジア訪問を単独で遂行した。延び延びになっていた新校舎贈呈式(4校)、遊具贈呈式(5校)、9月に閉園した児童養護施設「夢ホーム」の点検など、諸活動を年内に終える必要があつたため、無理を承知で訪問した。

訪問に先立ち、日本国内の病院でPCR検査を行い、コロナ陰性証明書をもらつた。

これを持たないと入国できないからだ。鼻腔による検査限定、保険が利かない自由診療を承知で訪問した。

カンボジア入国に当たり、本来なら空港で2千ドル(21万円)の保証金を支払う義務があるが、カンボジアに在籍する会社に保証してもらう形で免除してもらつた。保証書を得取るため、カンボジア在籍企業に勤務する青木貴之さんにお骨折り頂いた。

11月1日、久々訪れた成田国際空港は静かだった。プノンペンへの直行便が運休中のANAカウンターは係員の姿も見えず、ひつそりしていた。

今回はアシアナ航空便(韓国)を予約、出国手続きを済ませ出発ゲートに。乗客は半数程度だった。(大半が韓国人)

午後1時に出発、乗り継ぎのインチョン国際空港には約2時間で到着した。ここでAは、健康に関する質問票など2つの書類を提出するだけで、問題なく通過することができました。

到着約3時間後に、プノンペンへ向かった。約6時間のフライト後、午後10時頃にプノンペン国際空港に到着した。

8か月ぶりのプノンペン国際空港は一変していた。大きさに言えば野戦病院のような雰囲気。空港の係員は全て白い防護服に身を固め、乗客に対応していた。

同乗者は80人ほどだが、空港に着くと先ず2グループに分けられた。空港で2千ドルを支払うグループと、企業の保証書をもち、2千ドルの支払いを免除されたグループ。私は後者で少數であり、懇意にしている内務省大臣の部下が特別に案内してくれ、書類審査などスムーズだった。

書類審査が終わると、PCR検査が行われた。鼻腔による検査、少し痛みを感じたが無事終了、その結果が出るまでの2日間は政府が指定するホテルでの待機が要請されていました。午前中にフロントから連絡あり、搭乗者全員が陰性だったので、家の帰れますとの朗報、ここで1人でも陽性者がでたら、搭乗した全員が2週間の隔離となるところだった。

とはいって、自宅(ホテル)での自主隔離が要請されたので、手放しでは喜べない。しかし見張りがついているわけではないので、適当に外に出て食事したり買い物したりして過ごした。3日の午前中にPCR検査を行った。11月14日、本会事務所(ボンケンソン)に近い「ロシア友好記念病院」に行き、2回目のPCR検査を行った。2日後の16日に証明書を受け取り陰性が確認されたので、晴れて自由の身となつた。(つづく)

▼カンボジア訪問顛末記(1) 根岸恒次(法人理事長)

根岸恒次(法人理事長)

ウォッヂ カンボジア



カンボジアの田園風景

新校舎を寄贈した「ノンビヒア小学校」の近くに眺望の良い丘があり、寺院を建設していた。カンボジアの田園風景を見渡すことができる場所として、やがて観光名所になるだろう。



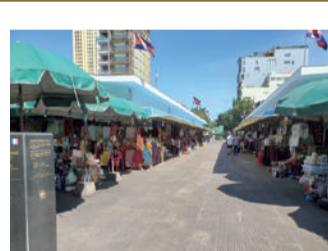
田園風景

「オン・ソム・アン」

カンボジアの代表的なお菓子といえば「オン・ソム・アン」。バナナをもち米でくるんで焼いたお菓子。温かいうちには食べるとしても美味しい。値段は都心部で2000リエル(50円)、地方で1000リエル(25円)。



「オン・ソム・アン」



セントラルマーケット

いつもなら外国人観光客で混雑する、ブノンペニの中心部にある「セントラルマーケット」も、ご覧のよう有ります。お土産屋、宝石売り場は閑古鳥が鳴いていたが、カンボジア人が利用する鮮魚店、八百屋は繁盛していた。



「オン・ソム・アン」

カンボジア版 「ウーバーイーツ」

自宅に食品を運搬する「ウーバーイーツ」。カンボジアでも流行していた。日本は自転車だが、カンボジアはバイク、しかも女性配達員も頑張っていた。「ウーバー地蔵」はいなかつた。

レストランなどから稻作が盛んな地方に行くと、刈り取り間近の稻がたわわに実を結んでいた。12月～1月にかけて稻刈りが行われる。水が豊富なところは年2回の収穫があるそうだ。

レストランなどから稻作が盛んな地方に行くと、刈り取り間近の稻がたわわに実を結んでいた。12月～1月にかけて稻刈りが行われる。水が豊富なところは年2回の収穫があるそうだ。



「オン・ソム・アン」

ウーバーイーツ

自宅に食品を運搬する「ウーバーイーツ」。カンボジアでも流行していた。日本は自転車だが、カンボジアはバイク、しかも女性配達員も頑張っていた。「ウーバー地蔵」はいなかつた。

レストランなどから稻作が盛んな地方に行くと、刈り取り間近の稻がたわわに実を結んでいた。12月～1月にかけて稻刈りが行われる。水が豊富なところは年2回の収穫があるそうだ。



「オン・ソム・アン」

牛の行列

牛の行列が現れると、車も牛を避け

て通過する。

日本では考えられない風景だが、ひどい光景も同じ光景が見られた。



牛の行列が現れると、車も牛を避け

て通過する。

日本では考えられない風景だが、ひどい光景も同じ光景が見られた。

本会は在日本カンボジア王国大使館(東京都港区赤坂)と連携し、活動しています

本会の会員状況をお知らせいたします (2021年1月末日現在)	
●教育里親会員	236名
●個人会員	95名
●団体会員	8団体
●寄付協力者(単発)	53名
合 計	392名

**書き損じハガキ・未使用切手
・商品券等をお送りくださいませんか**

本会では、書き損じハガキ・未使用的切手やビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしてあります。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願ひ致します。普通郵便で事務局へお送りください。

2月
2月～3月の予定
会報「アンコールワット」
第19回定期総会
(3月・オンラインを予定)



広がる 11月～12月にかけ市中感染

世界的に流行している新型コロナウイルスの影響で、ブノンペンを中心に市中感染が拡大、遊興施設の営業停止やイオンモールなど、大型ショッピングセンターが営業を自粛した。公立学校も臨時休校になるなど、カンボジア社会に混乱が生じている。

コロナウイルスの世界的な感染拡大により、カンボジアへの入国規制が一段と強化されました。現行では、入国者は特例なく2週間のホテル隔離を強制され、ホテル滞在費用は全て個人負担になります。当分カンボジアへの旅はお預けになります。感染の終息を祈るばかりです。

工場110箇所が閉鎖、 55000人が失業

昨年1月～9月で、カンボジア国内の100箇所以上の縫製工場が閉鎖し、5万5000人以上が職を失ったと政府関係者が明らかにした。これについて労働組合は、失業者がさらに増加するのではないかと危惧している。

春さんのカンボジアレポート ～カンボジアで自転車増加～

武漢コロナ禍以降のカンボジアのシェムリアップで、変わった事の一つ。自転車乗りが増えたことです！

それまでは、人々の足はバイクが主流でした。カンボジアの人は歩くのが嫌いで、わずかの距離もバイクです。稀に自転車を見かけますが、ほとんどが外国人観光客のママチャリです。

それが、スポーツウェア姿のカンボジア人が乗ったマウンテンバイクが街をさっそうと走る姿を、あちこちで見かけるようになりました。健康のためでもあります。

マウンテンバイクの価格は200ドル超。カンボジアの平均月収同等です。中には300ドル、500ドル、更には1000ドル、2000ドルのものもあります。なので、街には自転車店が増えてきました。ちなみに我が家の孫のマウンテンバイクは280ドルです。

里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)



11月24日～25日、カンボジア訪問も終盤になり、時間が取れないのでカンボジアのリゾート地「シアヌークビル」に行ってみた。5年ぶりだ。
事前情報では、シアヌークビルは中国人が増えて、カンボジアであってカンボジアでないような雰囲気に様変わりしたと聞いていたが、本当にその通りだった。「カジノと中国人の街」に変容していた。

コロナ禍にもかかわらず、街の至る所で高層マンションや高級ホテルの建設が進められていて、海岸も中国人で溢れていた。5年前に多数見かけた欧米人はほぼゼロ、日本人は多分私だけかも？

カンボジア人グループは小さくなつて海岸で食事していたのが、とても可哀そうだった。これも国策かなど、やるせない気持ちがよぎった。



夜になると、昼間には気づかなかつたカジノ店のネオンがあちこちに。高級車両に乗つた中国人らしき客を沢山見かけた。

シアヌークビルはカンボジア最大の港、輸出入製品の大半はここから出正在している。中国の軍港にならないようにと祈つている。(根岸記)

全日本空輸(ANA)は、成田～プノンペン線結ぶ直行便について、2月から再び運休することを発表した。同路線は、世界的に流行している新型コロナウイルスの影響で昨年4月から運休となつており、12月に運航を再開したばかりだった。カンボジアの出入国規制や検疫体制、需要動向などにより運休が決定された。

成田～プノンペン線を2月 末まで運休延長

12月10日、大手ビジネスホテルチェーンの「東横イン」が、プノンペンにある「東横イン プノンペン」の営業を終了した。世界的に流行している新型コロナウイルスによる客室稼働率の低迷によるものだという。12日からはホテルのオーナーに運営権が譲渡され「Tokyo Inn With Dara」として運営



東横イン プノンペン、 ホテル運営権を譲渡



英語能力指標、カンボジア は100か国中84位

世界100か国、220万人の英語試験、ビッグデータを活用した英語能力のベンチマーク「EFLP-英語能力指数」最近ランクインした。カンボジアが84位にランクインした。

去年のランクインではカンボジアは94位にランクインしており、今年は順位を10位上げたことになる。第二外国語として英語を学ぶ人が増えていることが背景にある。